

日本学術会議公開シンポジウム

「周術期等口腔機能管理の意義と課題」



主催：日本学術会議歯学委員会 病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会、臨床系歯学分科会

共催：日本口腔科学会

後援：日本歯学系学会協議会、日本生命科学アカデミー

令和8年(2026年)

朱鷺メッセ 新潟県コンベンションセンター
(新潟県新潟市中央区万代島6番1号)

4月18日(土)

15:00~16:30

申し込み＝参加費無料・事前申込不要

問い合わせ先＝大阪大学大学院歯学研究科 村上伸也

E-mail: murakami.shinya.dent@osaka-u.ac.jp

2012年に、がんを始めとして多種の疾患の治療をする医師らと連携し、手術時のみならず、化学療法や放射線療法などの治療の前後に歯科医師が包括的な口腔管理を行い、治療の過程で生じる合併症や有害事象の予防および軽減を目的として、歯科の診療報酬に周術期等口腔機能管理が導入された。その際、多くの歯科医師にとっては不慣れなものであったため、適切に実施するために全国で多くの講習会が開催され、学部学生や研修歯科医教育においても新たな分野として組み込まれた。その後、10年以上が経過したが、期待どおりの効果が得られているのか、医科歯科連携の実施体制や歯科医師の教育に問題はないかなどの検証が必要であろう。今回のシンポジウムでは、厚生労働省、実施の最前線である病院歯科、学部学生や研修歯科医教育に携わる大学の立場から、現状と課題、そして将来の展望について議論する。

プログラム

挨拶： 村上 伸也 (日本学術会議第二部会員／大阪大学 名誉教授)

講演

座長： 中村 誠司 (日本学術会議連携会員／九州大学 名誉教授)

後藤 多津子 (日本学術会議連携会員／東京歯科大学 教授)

『医科歯科連携の推進と課題～周術期等口腔機能管理の観点から～』

小嶺 祐子 (厚生労働省 医政局歯科保健課 課長)

『病院歯科で実施する周術期等口腔機能管理の現状と課題』

栗田 浩 (信州大学医学部歯科口腔外科 教授)

『大学で教育する周術期等口腔機能管理教育の現状と課題』

西 裕美 (広島大学病院口腔総合診療科 診療講師)

総合討論

進行： 中村 誠司 (日本学術会議連携会員／九州大学 名誉教授)

前川 知樹 (日本学術会議連携会員／新潟大学 教授)

討論者： 小嶺 祐子

栗田 浩

西 裕美

挨拶： 森山 啓司 (日本学術会議第二部会員／東京科学大学 教授)

